

所属・氏名（薬学部薬学科 氏名：世良行寛）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) チーム基盤型学習(TBL)を用いた自律的な学修力、教育力、コミュニケーション力の可視化	共著	2022年3月	広島国際大学基盤教育センター紀要	生物学演習をTBLにて実施し、成績の各項目、ならびにアンケートを解析したところ、TBLによる学修は、学力のみならずコンピテンシーの醸成、ならびに評価が可能なが示された。(総ページ数:10頁) (山口 雅史、井口 裕介、宇根 瑞穂、大西 勇氣、神垣 真由美、清家 総史、 <u>世良 行寛</u> 、瀧野 純一、平尾 雅代、山下 ユキコ) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (学術論文) SBDS interacts with RNF2 and is degraded through RNF2-dependent ubiquitination 《筆頭論文》	共著	2022年2月	Biochem. Biophys. Res. Commun.	RNF2がSBDSをユビキチン化しプロテアソームを介した分解制御を促進することを明らかにした。(総ページ数:5頁) (<u>世良 行寛</u> 、佐戸谷 実希、一瀬 貴史、松谷 真次、今中 常雄、山口 雅史) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (報告・発表) Increased ROS production due to SBDS gene mutation leads mitochondria dysfunction and DNA damages	共著	2021年9月	第83回日本血液学会学術集会	シュバツハマン・ダイヤモンド症候群(SDS)の病態モデル細胞を解析し、ゲノムDNA傷害やミトコンドリアダメージの蓄積によるROS産生亢進がオートファジーを誘導している可能性を示した。 (山口 雅史、山本 桜子、武藤 朱音、古場 脩太、中村 啓太、馬原 涼雅、 <u>世良 行寛</u>)
4 (報告・発表) プロテアソーム系を介したRNF2によるSBDSの制御	共著	2021年5月	第21回Pharmacology-Hematologyシンポジウム	シュバツハマン・ダイヤモンド症候群(SDS)に関するSBDSタンパク質がRNF2によるユビキチン化を受け、プロテアソームを介した分解制御を受けていることが明らかとなった。 (<u>世良 行寛</u> 、松谷 真次、山口 雅史)
5 (報告・発表) RNF2によるSBDSのユビキチン化と量的制御	共著	2021年3月	日本薬学会第141年会	シュバツハマン・ダイヤモンド症候群(SDS)に関するSBDSタンパク質がRNF2によるユビキチン化を介して分解制御を受けていることが明らかとなった。 (<u>世良 行寛</u> 、梶山 大地、杉 賢太郎、松谷 真次、一瀬 貴史、佐戸谷 実希、山口 雅史)
6 (報告・発表) 骨髄系細胞においてSBDS遺伝子変異による活性酸素種(ROS)産生の亢進はミトコンドリアとDNAの傷害を増強する	共著	2021年3月	日本薬学会第141年会	シュバツハマン・ダイヤモンド症候群(SDS)の病態モデル細胞を作成し、その性状を解析したところ、ROS産生亢進、ミトコンドリアダメージ増加、オートファジー誘導、ゲノムDNAの切断が確認された。 (山本 桜子、武藤 朱音、古場 脩太、中村 啓太、馬原 涼雅、 <u>世良 行寛</u> 、山口 雅史)

令和4年5月24日 現在